



令和8年8月28日発行
久慈農業改良普及センター
経営指導課：0194-66-9684
産地育成課：0194-66-9683
地域指導課：0194-53-4989
FAX：0194-53-5009

～ 掲 載 内 容 ～

ページ

1 久慈地域の情報

○普及現地情報

・・・ 1

- ・産地リーディングサポーターの委嘱状交付式及び農家巡回出発式が行われました！
- ・地域の産直から学ぼう！～運営力向上に向けた研修会を開催しました～
- ・花きほ場巡回が開催されました
- ・「白銀のひかり」栽培志向者向け研修会を開催しました！

2 お知らせ

○あぐりあす 鳥獣被害防止特集コラム(第2回)

・・・ 5

- ・電気柵は「立てて終わり」ではありません。
正しく設置し、こまめに管理して農地を守りましょう

○農業経営や就農のお悩み、ご相談ください

・・・ 別添

- ・農業経営や就農について課題があれば、お気軽にご相談ください。

○農業経営の第三者継承についてご相談ください

・・・ 別添

- ・農地や施設、技術などの大切な経営資産を、次の担い手へつなぎます。

○農作業中の熱中症を予防しましょう

・・・ 別添

- ・暑さを避け、こまめな休憩と水分補給を心がけましょう。

○秋の農作業事故を防ぎましょう

・・・ 別添

- ・少しの油断が事故のもと。初心を忘れず、安全な作業を心がけましょう。

○農作物の盗難防止対策を徹底しましょう

・・・ 別添

- ・園地や保管庫を点検し、大切な農作物を盗難被害から守りましょう。

○収入保険をご存じですか

・・・ 別添

- ・自然災害や価格低下に加え、盗難などによる収入減少にも備えられます。

産地リーディングサポーターの委嘱状交付式 及び農家巡回出発式が行われました！

6月29日に、新岩手農業協同組合久慈営農経済センター主催による産地リーディングサポーターの委嘱状交付式が行われ、今回は6名に委嘱状が手渡されました。交付式後、農家巡回出発式が行われ、続いて、洋野町の二ツ屋集荷場に移動し、ほうれんそうと菌床しいたけの出荷品質検査を実施しました。

産地リーディングサポーターとは、自らの旺盛な生産活動によって産地を先導するとともに、卓越した技術と経営感覚により、周辺農家や新規栽培農家等への指導・支援を通じて産地の維持・拡大に貢献していただいているものです。

出荷品質検査では、集荷場に搬入されたほうれんそうや菌床しいたけの箱を開封し、チェックリストに照らし合わせながら、産地リーディングサポーター同士で出荷規格を確認し合う様子が見られました。今回の検査結果を基に、管内の農家に対して指導を行う予定です。

今年度は4回の農家指導巡回を予定しており、普及センターも産地リーディングサポーターと連携し、引き続き産地の維持・拡大に向けた支援を行っていきます。



委嘱状交付式の集合写真



出荷品質検査の様子

地域の産直から学ぼう！ ～運営力向上に向けた研修会を開催しました～

久慈地域産直連絡協議会では、産直の運営力向上を目的に、7月8日に道の駅のだ「ぱあぷる」において視察研修を開催し、会員など18名が参加しました。

研修会では、初めに道の駅の駅長から産直の説明を受けた後、総務課長から各産直から寄せられた事前質問に回答していただきました。集客に向けたイベントの実施や、リピーター確保のため、継続的に新商品を開発していること、防犯対策などについて話を伺うことができました。続いて、産直施設の視察を行いました。商品の見やすさや売り場のレイアウトなどの項目が書かれたチェックシートを活用し、店内を巡りながら売り場づくりの工夫を確認しました。

視察後は、意見交換会として各産直でグループに分かれ、今後取り組みたいことなどを共有しました。参加者からは「低い陳列棚で幅広い年齢層が商品を見やすい」、「POPの色や高さが統一されていて見やすい」といった感想が聞かれました。陳列方法やPOPの見せ方について自身の産直でも取り入れたいという意見が出され、他産直の取り組みや考え方に触れながら、運営力向上に向けた多くの気づきを得る機会となりました。



チェックシートを記入しながら視察する様子。



意見交換会の様子。各産直の代表者が今後取り組んでみたいことを発表しました。

花きほ場巡回が開催されました

花きほ場巡回(主催：J A 新いわて久慈地方花き部会)が、7月15日に管内3市町村で開催され、久慈地方のスプレーギク生産者10名が参加しました。当ほ場巡回は、スプレーギク生産者が相互の栽培状況や開花状況を確認することにより、生産意欲や技術の向上を図ることを目的に、毎年開催されています。

当日は、6か所のスプレーギク栽培ほ場を巡回しましたが、一部ほ場では、病虫害の発生や、連作障害が疑われる症状の発生があり、防除や土づくり等の課題が明らかとなりました。

研修会では、種苗メーカーのイノチオ精興園の担当者から、スプレーギクの中でも耐暑性のある新品種等について説明を頂きました。普及センターからは、スプレーギクの収穫前の栽培管理について説明を行いました。

きく類は、昨今高温傾向で需要期より開花が遅延していましたが、今年は7月上旬まで前年より気温が低く推移したことが影響し、開花が順調に進んでいます。今後、生産者は巡回でのアドバイスを元に、適期出荷に向け、栽培管理を進めていきます。



▲スプレーギクのほ場を見学する生産者



▲膜割れ期のスプレーギク

「白銀のひかり」栽培志向者向け研修会を開催しました！

7月22日（水）に新岩手農協久慈営農経済センターと久慈市大川目のほ場において、デビュー2年目となる「白銀のひかり」の栽培志向者向け研修会を開催しました。

研修会では、県北農業研究所から白銀のひかりの特徴について、農政部から作付経営体の要件について説明をいただき、その後、試食会を行いました。試食会では、参加者の皆さんは、「白銀のひかり」をゆっくり味わっている様子でした。

久慈地域「白銀のひかり」栽培研究会の研修会もあわせて開催され、当センターからは「白銀のひかり」の生育状況や高温対策等について情報提供を行いました。

続いて行われた現地研修会では、ほ場主から「白銀のひかり」の育苗から現在までの栽培の概要について説明をいただきました。参加者からは多くの質問が出され、生産者同士の活発な意見交換の場となりました。

当センターでは、「白銀のひかり」の認知度向上・栽培者拡大に向けた取組を引き続き行っていきます。



室内研修会の様子



現地研修会の様子

あぐりあす 鳥獣被害防止特集コラム（第2回）

電気柵は「立てて終わり」ではありません 正しく設置し、こまめに管理して農地を守りましょう

（岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当 資料より抜粋）

前回は、鳥獣被害を減らすための基本として、「よせつけない」「まもる」「とる」の3つを組み合わせることを紹介しました。今回は、その中の「まもる」対策として、電気柵の基本と管理のポイントを紹介します。

■県内の被害報告からも、電気柵への関心が高まっています

令和7年度に、県内でクマによる農作物被害が報告された39経営体・43事例について、被害対策の状況や今後の対策意向などを確認しました。その結果、今後自分で行いたい対策として「電気柵設置」が最も多く挙げられました。設置後の維持管理や刈払いへの支援を求める声もあり、電気柵は「設置」と「管理」をセットで考えることが大切です。

【調査対象】		【今後に自身で行う被害防止に向けた対策】	
被害作物	事例（割合）	対策の実施内容	件数（割合）
果樹	26（60%）	電気柵設置	24（62%）
飼料作物	9（21%）	追い払い活動	13（33%）
野菜	3（7%）	環境整備や緩衝帯整備	12（31%）
水稻	1（2%）	センサーカメラの設置	7（18%）
その他	4（9%）	その他	5（13%）
合計	43（100%）		

クマ対策としても、シカ・イノシシ対策としても、農地に入れないための基本となるのが、電気柵などの侵入防止対策です。

■電気柵は「心理柵」です

電気柵は、シカやイノシシ、クマなどから農作物を守るために有効な対策の一つです。ただし、電気柵は「立てれば安心」というものではありません。動物がワイヤーに触れたときの電気刺激により、「ここは危ない」と学習させ、近寄りにくくする柵です。

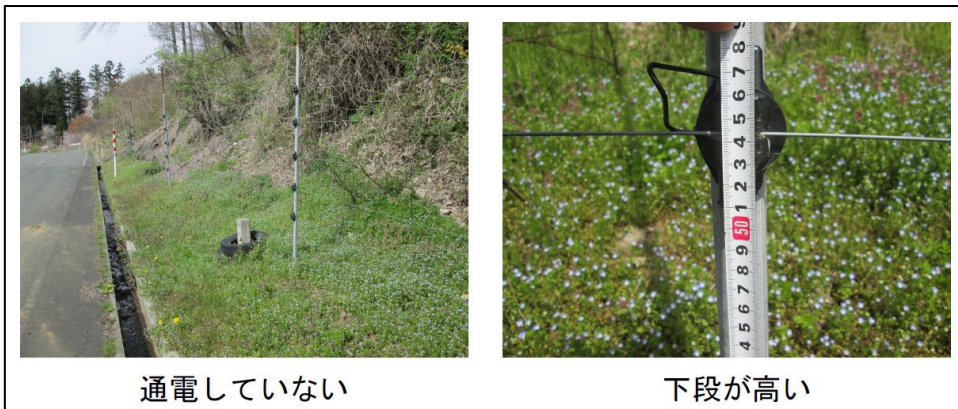
ポイント

電気柵は、動物を力で止める柵ではなく、電気刺激で「ここは危ない」と覚えさせる“心理柵”です。

■通電していない柵や下段が高い柵は、効果が落ちます

シカやイノシシ、クマなどの野生獣は、初めて電気柵に近づいたとき、鼻先や唇でワイヤーが安全かどうかを確認する習性があります。このときに十分な電圧が保たれていれば、強い刺激を受け、その後は柵に近づきにくくなります。

反対に、通電していなかったり、電圧が弱かったりすると、動物は「この柵は安全」と覚えてしまい、侵入を許す原因になります。また、下段が高すぎると、下からくぐられるおそれがあります。



■対象獣種に合った高さで設置しましょう

電気柵では、下からの侵入を防ぐため、下段の高さがとても大切です。特にイノシシやクマは下から入り込むことがあるため、低い位置のワイヤーを適切に張ることが重要です。シカ、イノシシ、クマでは必要な高さが異なるため、「何の被害を防ぎたいのか」を確認し、対象となる獣種に合った高さで設置しましょう。

獣種別電気柵の高さ		(単位：cm)				
	20	40	70	100	130	
ツキノワグマ ・イノシシ	○	○	○			
ニホンジカ		○	○	○	○	

下からの侵入を防ぐため、**下段の高さ**が重要！
(膝下までに2段が通っている状況)

■設置後の管理が効果を左右します

設置後の管理も大きなポイントです。草が伸びてワイヤーに触れると漏電の原因となり、十分な電圧が保てなくなることがあります。また、支柱の傾き、ワイヤーのたるみ、電源の不具合などがあると、効果が落ちてしまいます。

資料でも、設置後の点検や修繕が行われていないため、十分な効果が発揮できない事例が多く見られるとされています。電気柵は「設置」だけでなく、「管理を続けること」まで含めて対策と考えることが大切です。



なお、捕獲も必要な取組ですが、農地に入りやすい状態が残っていると、被害が繰り返されるおそれがあります。電気柵などで「まもる」対策をきちんと行い、前回紹介した「よせつけない」対策とあわせて進めることが大切です。

まずは、今ある電気柵がきちんと通電しているか、草が触れていないか、下段が高すぎないかを確認してみませんか。日ごろの小さな点検と手入れが、農地を守る力につながります。

■電気柵の効果を保つために、まず確認したい5つ

① 通電しているか	電気が流れていない柵は、動物に「安全」と覚えられるおそれがあります。
② 草がワイヤーに触れていないか	草が触れると漏電し、電圧低下の原因になります。
③ 下段の高さが高すぎないか	下からくぐられないよう、低い位置のワイヤーが大切です。
④ ワイヤーがたるんでいないか	たるみや支柱の傾きがあると、侵入されやすくなります。
⑤ 対象獣種に合った設置になっているか	シカ、イノシシ、クマでは必要な高さや対策が異なります。

■次回予告

今回は、クマに遭遇しないための備えや、出会ってしまったときの行動について紹介します。

電子メールを活用した農業情報のサービスを行っています

久慈農業改良普及センターでは、農作物技術情報、台風や気象災害などへの注意情報、病害虫に関する情報、スマート農業に関する情報などをタイムリーに入手することに役立つメール配信をしています。

ご自身のメールから ce0026@pref.iwate.jp (普及センター組織アドレス) まで「氏名」、「住所」、「電話番号」を送信していただければ、いつでも登録できます。登録すれば久慈農業改良普及センター(地域 ML)からだけでなく、県(県 ML)からも情報が配信されます。

【二次元コードからも申込みできます】

これまでに県から配信した内容は、次のような内容です。

- ・農作物技術情報(毎月、号外あり)
- ・農作物病害虫発生予察情報
- ・病害虫防除速報(水稻、野菜、果樹、花きなど)
- ・産地情報「産地紹介・人物紹介」(毎月)
- ・県からのお知らせ(イベント案内、研修会案内など)

今後も随時、情報発信していきますので、ぜひご活用ください。



～いわてアグリベンチャーネット掲載記事の紹介～

いわてアグリベンチャーネットでは、毎月、各地域の農業情報をお知らせしています。

【7～8月分の掲載記事】

○産地・産直情報：《久慈》新品種「白銀のひかり」栽培拡大中！～地域に広がるおいしいお米づくり～
《宮古》学び舎の思い出と地域の恵みに出会う「道の駅 三田貝分校」

○人物紹介：《一関》JAいわて平泉の花泉エリア総括～栗原亨さん～

○『普及活動年報』 県内各地域の普及センターの取組を紹介します。

下記の URL、または右の二次元コードからご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/index.html>



久慈農業改良普及センターFacebook 公開中！

久慈寒次郎が、最新の情報や、HOT な情報をお届けします。

下記の URL、または右の二次元コードからご覧ください。

<https://www.facebook.com/岩手県久慈農業改良普及センター-581601925540151/>

